

2023 年 9 月 1 日

## 2022 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名小平学・まちづくり研究所.....

代表者・役職名 氏名 山路 憲夫.....

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

ひまわりのおうち in 小平—引きこもりの居場所づくりと相談支援

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2016 年度末、小松隆二白梅学園理事長(当時)や山路憲夫白梅学園大学教育・福祉研究センター長(当時)が中心となり、地域包括ケアなどを柱とするまちづくりを小平市で進めようと研究所を設立。教育、研究、福祉の地域連携を軸とした小平学の確立をめざしています。近年は深刻化する引きこもり支援を中心に、小平市社会福祉協議会とも連携して、学習会の開催や居場所づくりの活動に取り組んでいます。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

不登校や若年層・中高年のひきこもりなどを地域で支える体制づくりはまだまだこれからです。2019年に小平市社会福祉協議会によりひきこもりの家族会(現在とももの会)が発足。家族会に参加するうちに当事者の居場所と相談支援のニーズが潜在的に強いと思われ、専門的な支援が求められることから、小平市社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカーの協力を得て、本研究所に関わる社会福祉法人つむぎの30年にわたる障がい者への専門的取り組みを生かして、ひきこもり支援のための居場所と相談支援の役割を果たしていきたいです。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

毎月「ひまわりのおうち」を開催。そこでは個別的な状況に応じてゲームや、グループでの話し合い、相談支援などさりげない関わりをつうじて、本人にとって居心地の良い居場所の役割を果たしていきたいです。前年度は「ひまわりのおうち」は月1回開催してきましたが、2022年度は月2回に増やしたいと思います。居場所でのメニューも料理やカラオケなどを取り入れて、参加者の状況に合わせた多様なメニューも工夫したいと思っています。福祉職経験者等のほか、当事者スタッフにも積極的に関わってもらい、当事者同士の交流を進めたいと思います。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

開催回数も月2回に増え、参加者も毎回7~8人の参加があり、貴重な外出の場・交流の場となり、また安心して気持ちを話せる居場所として地域に根を下ろし始めています。ボードゲーム会、カレー・オムライス作り、カラオケなどのイベントを通して、ふだんの居場所で見せるのとは違った表情がみられるなど、新たな発見がありました。また「居場所研修」と「発達障害」の学習会(スタッフ)を行いました。学習会では、安全な居場所を提供するためのルールづくりが大切であることを学んだり、最近多くみられる発達障害の知識を習得することができました。またスタッフが報酬を得られたことは当事者スタッフをはじめモチベーションがあがり、居場所活動の安定化・活性化につながりました。

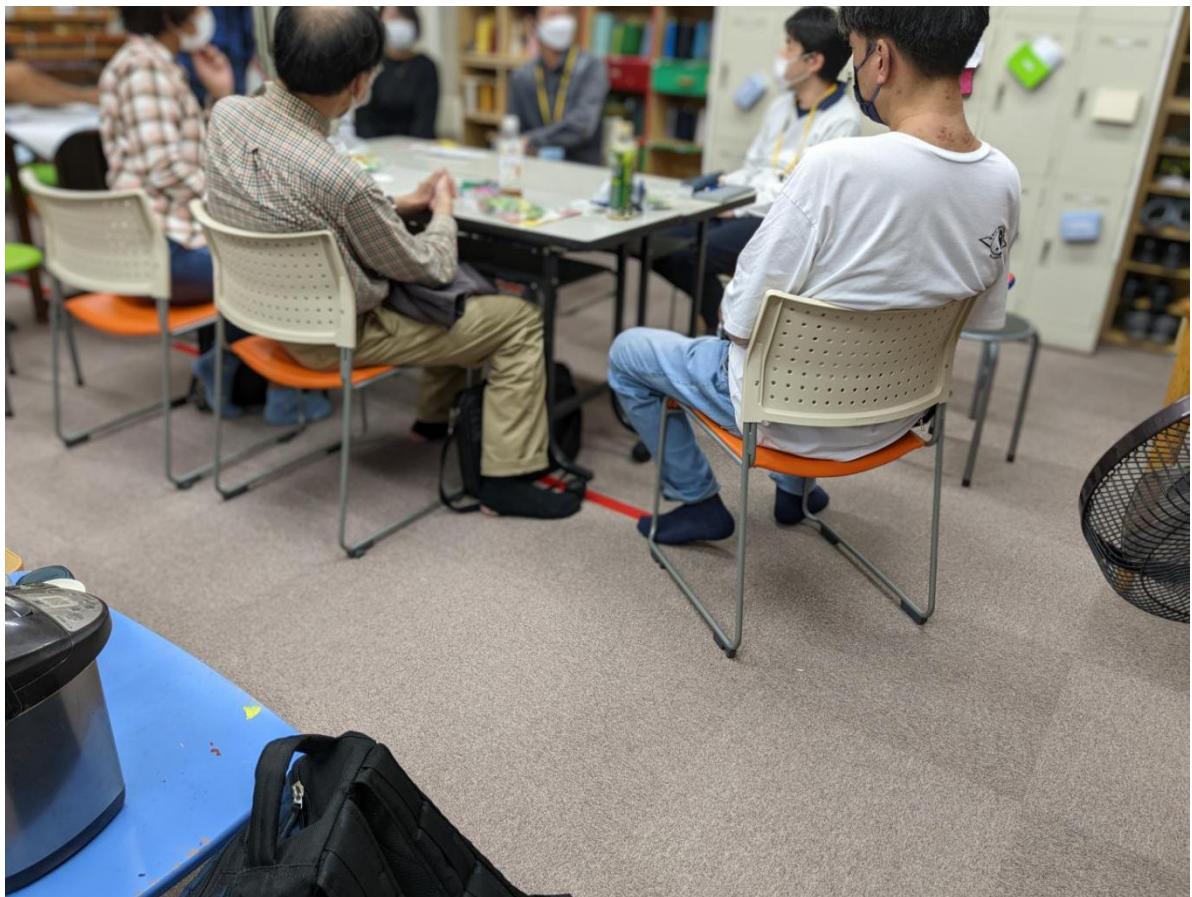
### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

現在「ひまわりのおうち」の周知の方法は、チラシ、Twitter、社会福祉協議会(csw)、ロコミ、情報サイト(ひきこもりプラットフォーム)で広めています。2年目に入りますが、1回の参加人数は6人から8人です。少しずつですが人数も増えてきました。また障がいのある人もない人も、様々な生きずらさを抱えている人が参加しても対応できるような居場所にしていきもっと地元のひきこもりの方々へ「ひまわりのおうち」の存在を周知していきたいです。居場所の定着が今回大きな目的になってしまい、相談支援への取り組みはまだ十分ではありません。今後の取り組みとしてスタッフで検討していくことになると思います。

### 7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください



看板（中央公民館和室の前）



雑談の様子（会場 おだまき作業所）



ボードゲーム会場



トランプをしている皆さん



カレーづくり



オムライスをお皿に盛っている



食事の風景（みんな静かにもくもくと）

